

公園・遊園地における死亡災害事例（1999-2020年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労働 者規 模
1999	6	16 ～ 17	遊園地内で取った草をトラックで回収するため運転者のほか2名がトラックの荷台に乗り目的地に向かったが、Y字路で道を間違えたため一度後進したのちハンドルを左に切って前進したときに、荷台に乗っていた者が墜落し頭を打った。	221	1	10～ 29
1999	8	15 ～ 16	遊園地において客から財布紛失の届出があったので、同僚と2名で遊具ルーピングスターシップ周辺を探索していて、遊具の下のピット内で倒れているところを同僚に発見された。	391	6	100 ～ 299
2000	9	10 ～ 11	草取り清掃作業を行っていて10時の休息のため作業場所から作業員詰め所に向かって駐車場内を歩行中、歩行方向の左側約3m位置に駐車していた乗用車がバックで急進してきたためはねられた。	231	17	10～ 29
2000	11	17 ～ 18	閉園時刻前に観光客が移動式遊歩道として使用するスロープコンベアの終業時点検を行っていたときに、着用していた雨合羽がコンベアベルトとプーリーとの間に巻き込まれ、頸髄を損傷した。	224	7	30～ 49
2001	7	15 ～ 16	「移動動物園」のため貨物自動車を運転し動物を輸送中、カーブを曲がり切れずに直進し、斜面を約10m転落した。	221	17	100 ～ 299
2001	8	14 ～ 15	自動車道で渋滞でとまっていた車の列の最後尾に停車していたところ、大型トラックに追突され7台が関係する玉突き事故となった。	221	17	1000 ～ 9999
		9	町宮公園の桜の防除作業で、北側斜面の薬剤散布を行ったのち、南側斜面			10～

2001	7	～	の薬剤散布を行うため軽トラックで移動中、軽トラック荷台に乗っていて	221	1	29
	10		荷台上の薬剤タンク(270L)とともに転落した。			
2002	5	～	2台の車両で都道を走行中、前方車両が駐車場に入庫するために急速に車	231	17	1000
	18		線変更をしたため、後方の車両に追突されてハンドル操作を誤り駐車場入			～
			口看板を巻き込みながら駐車場係員3名を跳ね、そのうち1名が死亡した。			9999
2002	10	～	「サイクルパラシュート」と呼ばれる遊戯施設の始業点検作業中に、「サ	219	1	30～
	11		イクルパラシュート」のゴンドラ状の搬器脇の地上に墜落した。			49
2002	12	～	庭園での作業を終えたので作業車（軽ワゴン車）を敷地内駐車場に入れる	231	6	10～
	17		ため、助手席からいったん降りてゲートを開けたのち戻ろうとしたとき			29
			に、作業車が発進したため跳ねられた。			
2005	10	～	開園準備のためクマを飼育舎から屋外の展示場所へ移動させる作業中に、	911	90	100
	9		クマに襲われた。			～
						299
2005	6	～	遊園地の観覧車の始業点検を行っていたとき、点検通路でバランスを崩	391	7	50～
	10		し、搬器回転用レールと従動輪に巻き込まれた。			99
2008	12	～	市道脇の街路樹の枝切りり作業を被災者他5名で行っていた。被災者は街	712	1	1～9
	16		路樹に上り枝切りりをしていたところ、足をかけていた枝が折れて、約			
			2.7mの高さから道路に墜落して死亡した。			
2010	1	～	遊園地レジャーランド内で、修繕塗装のため各部単管足場に覆われた	411	3	50～
	13		ジェットコースターを、当該状態で営業運転しても問題がないか否か確認			99
	14		するため、被災者含め2名で搭乗し、試運転を試みたところ、途中左に			
			カーブしながら急降下している時に、被災者の左の額が、突き出していた単			
			管パイプに激突し、翌日死亡が確認された。			
			D51型の1／2スケール電気機関車（6両編成。乗客の周遊に使用）に			
	9		乗って始発前作業として軌道上のゲート鋼製扉を開けるため線路内で機関			

2010	5	～ 10	車を停車して降り、扉を開けようとしたところ、機関車が動き出して機関車に背を向けていた被災者が機関車と扉に挟まれ死亡していた。発見時に扉と機関車に挟まれた状態にあり現認者はいない。停車地は傾斜しており、何らかの原因で停車していた機関車が逸走したとみられる。	232	6	10～ 29
2010	8	14 ～ 15	市の公園において道路にはみ出した桜の木を剪定するため、脚立に上がり、小型のチェーンソーで桜の枝を切断したところ、脚立から足を踏み外して墜落、道路面に後頭部を強打し、意識不明のまま病院に搬送され治療を受けていたが、災害発生から8日後に死亡した。	371	1	10～ 29
2012	10	3 ～ 4	母親のアジア象が出産した仔象を攻撃していたため、被災者を含めた3名の飼育員が母親象の檻の中に入り、母親象と仔象を引き離そうとしていたところ、被災者は母親象に鼻で飛ばされ、仰向けに倒れたところを足で踏まれ、救急搬送先の病院で死亡した。	719	6	100 ～ 299
2013	12	～ 14	剪定を行うため、高さ3mの藤棚に登って作業を行っていたところ、誤って墜落した。尚、目撃者おらず詳細は不明である。また、安全帯は着用していたが使用しておらず、ヘルメットも着用していなかった。	419	1	10～ 29
2014	1	10 ～ 11	堆肥小屋にて、被災者は、頭部を負傷した状態で座り込んでいるところを発見された。尚、発生時の状況については目撃者がいないため不明。	611	1	50～ 99
2017	11	10 ～ 11	被災者は、キャンプ場敷地内で落ち葉の集積、焼却などの清掃作業を行っていたが、地面に掘った穴（大きさ約4.5m×約5m、深さ約1m）に大量の落ち葉を入れて焼却中、2tトラックで運搬されてきた落ち葉を追加投入するため、炎が穴の外まで勢いよく燃え盛る中、その周囲でトラックの誘導等の作業を行っていたところ、誤って穴に転落し、全身に火傷を負い死亡した。	419	11	1～9
2017	3	8 ～ 9	開園準備のため2名でアジアゾウ（体重3.5t）の洗体及びボディチェック中、ゾウが立ち上がろうとしたためなだめていたところ鼻で撥ねられ、柵の鉄柱に3回にわたり頭で押さえつけられた。同僚が助け出し病院に搬送されたが重傷頭部損傷による死亡が確認された。	719	6	100 ～ 299

2019	7	20 ～ 22	ショーの練習のため、園内においてダンス等の練習を行い、夜に練習を終えて300メートルほど離れた控室に戻る途中で、着ぐるみを着ていた被災者が自力で歩けなくなり、仲間に両脇を抱えながら控室に戻り介抱されていたが、心停止状態となり、その後救急搬送された病院で死亡したものの。	715	11	300 ～
2019	1	10 ～ 12	事業場内の倉庫の裏に生えていた樹木の枝が伸び、同樹木の葉が倉庫の屋根の樋に溜まってしまうことから、被災労働者が同僚1名と共に、樹木の剪定を行うこととなった。被災労働者が、脚立〈天板高2.85メートル〉を設置し、同脚立の踏みさん〈地上高さ2.6メートル〉を足場にして、チェーンソーで樹木の枝切り〈枝までの地上高さ4.5メートル〉を行っていたところ、同脚立上から墜落し、その後死亡した。	371	1	30～ 49

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pg/SIB\\_FND.aspx](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx)(職場のあんぜんサイト)

[https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206\\_03.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_03.html)に戻る。